

狩勝物語

新得町郷土研究会 西村 良雄

私が「かりかち」の地名を知ったのは、中学二年生昭和四十一年（一九六〇）年秋の頃だったと思います。私の故郷は信州松本で、昭和二十七年（一九五二）年四月五日（土）にこの世に生を受け高校卒業までの十八年間を過ごし、進学を目指し憧れの東京に上京、就職と、三十年間を東京に住み新得町に縁が有り現在に至っています。新得町と松本市との直線距離は八七〇キロメートル程と離れ随分遠くの地です、中学二年生の私がこの年の出来事を何故知ったのだろう、叔父の岡田政広は俺の名の広は帯広の広と同じだと前置きし、北海道帯広の近くに狩勝と言う急勾配を蒸気機関車が走る有名な場所が有るそうだが、行ってみると蒸気機関車の好きな兄と話題にしていたのを聞いた様に記憶して居るのです、私も何時かはそんな名所の北海道の地で走る蒸気機関車を見たいと思いを馳せていたのですが、何せ北海道は東京以上に遠く、まだ東京にも行った事の無い私には夢でしか無かったのです。今思えば、叔父は野球好きで職場では左腕のピッチャー、アンチジャイアンツで当時の国鉄ファンだったのですが、何故か購読紙が全国紙のY社新聞でしたので、この秋に廃線になり新線に切変わる根室本線の記事を見て語ったのかなと、当地に来て旧線の廃線跡を知る事と成り当時の点と線が結び付きました。

今現在NPOの活動で旧狩勝線に関する廃線跡を活用する度に狩勝との縁を感じる次第です。縁と言えども一つ、それは新得山のスキー場の入り口にデゴイチと通称で呼ばれますが（D5195）号機

が屋根の下に展示保存されて居ます。このD51型は戦前から車両数一、一一五両もの生産量を誇り、機関車と言えばデゴイチと皆さんも思い描き親しまれた機関車ではないでしょうか。又、この車両は初期型生産のナメクジと呼ばれる（鉄道ファンの通称）タイプで煙突と砂箱、蒸気貯め等をカバーで覆って居ると言う特徴が有ります。煙突から後部が盛り上がった形状のタイプですが私の好きな形状です。数多く生産された一両に過ぎないこの95号機ですがここで車歴簿（抜粋）を見てみましょう。

昭和十三年三月二十九日 製造

製造会社 大阪汽車会社 製造番号 1564

昭和十三年四月四日

受領箇所 松本機関区 事由 新製配置

昭和十九年九月二十六日

受領箇所 秋田機関区 事由 配置替

昭和十九年九月二十九日

受領箇所 酒田機関区 事由 貸渡

昭和十九年十一月二十二日



令和3年の現在の姿 デフが北海道タイプに戻される

受領箇所 秋田機関区 事由 返却

昭和二十年六月二十九日

受領箇所 長野機関区上田支区 事由 貸渡

昭和二十年十二月二十日

受領箇所 松本機関区 事由 配置替

昭和二十九年二月二十六日

受領箇所 長野機関区 事由 配置替

昭和四十年七月四日

受領箇所 新得機関区 事由 配属配置替

昭和四十三年三月三日

受領箇所 滝川機関区 事由 配置替

昭和四十九年五月十五日

受領箇所 工事第85号 事由 用途廃止

昭和四十九年九月三日

受領箇所 工事第663号 事由 新得町貸渡

令和三年十月現在 生誕 八十三歳七ヶ月

以上の様にD5195号機の歩んで来た変遷を振り返ってみました。一部昭和十三年から昭和十九年の間の記入が無く、誤記不明の記述等有る様ですが製造以来、配属先の松本機関庫を皮切りに各地を変遷し活躍した事が見られます。ここで、注目したいのが私が生まれた昭和二十七年に松本機関庫に配置されて居た点です。扇形機関庫で休んで居た事も有ったでしょう。私の生家は松本駅から五〇〇メートル程、松本機関庫に至っては三〇〇メートル程と近く、後に通った中条保育園の隣です。直ぐ近くの中条踏み切りには兄と良く貨物の入れ替え、旅客車両を引く蒸気機関車を飽きもせずによく見に行った事は遠い昔の良き思い出です。生まれた時から機関庫のお昼のボーと、蒸気機関車の汽笛を子守歌代わりに聴き育ったのですが、その汽笛の中

には当時95号機とは解からなかったでしょうが、きつと聴いて居る筈です、ここ新得で95号機との縁その物、何か懐かしさを感じたのは気のせいでしょうか。新得機関区OBの機友会の方々の手厚い保存活動により保存状態も良く、野呂さんが調達したと言う明治四十一年（二九〇八）独逸RSW（ライン製鋼所）製造のレールを敷かれ堂々とした姿は誇らしく、そんな姿を見ながら人生の邂逅に感謝し、お互いの人生を語り合える兄貴の様な存在になりました。

ボーが聴こえ、蒸気機関車の汽笛、ラジオから昼の憩いが聴こえる時代は遙か昔の出来事です、あんな時代はもう有りません。日進月歩世の中の有り様が早い事速い事、両親の弔いに訪れた故郷の変貌ぶりには驚かされました。松本駅西口から見る北アルプスの常念岳が帰って来たねと出迎えてくれます。「故郷は遠きにありて思うものそして悲しくうたふもの」望郷の詩句として室生犀星がと、ネットでは調べられる時代ですが、ここ新得は第三の故郷として95号機と共に終の棲家としたいと思っています。

踏み切り

縁は異なるもの（本来の使い方と異なりますが）と言いますが、先に中条踏み切りが出て来ます、この踏み切りに通っていた方がJR東海「リニア鉄道館」元館長の金子利



新得駅構内昭和四十年頃 新得所属初期のデフは長工タイプ(写真黒岩保美氏 写真提供 黒岩美浩様)

治さんです。これは最近の話ですが、中条踏み切りの構造は松本駅構内に属して居た為、貨物列車の入れ替え作業が頻繁に行われていて、C11の蒸気機関車が行ったり来たりと開かずの踏み切りでした。当時としては珍しくも無い踏み切り番が遮断機の上げ下げを担っていて、通行車両やら人の往来をコントロールしていたのですが、金子氏の談に因れば、何時も何時も行くので踏み切り番小屋の係りの人と親しくなり小屋の中に入れる様になったとの事です、面識は無く同じ踏切に通った縁だけです。

記念写真

ここにD5195号機一枚の写真があります。NPOの仲間が探してくれた物ですが、興味深く見入りました。所属先を示す「松」の文字。形式D51と記されたナンバープレート。製造会社の汽車製造の名称、製造番号1564も確認できます。又、若き機関士の何と凛々しい姿の事か。正に松本機関区に属していた時代に機関士の記念写真として撮られた物と推察しますが、何とも嬉しい思い出でした。是非ともこの機関士の事が知りたく仲間を確認してもらったところ、時間は掛かった物の末裔の方が対応して下さり今回、事の顛末を書かせて頂ける事となりました。この場を借りお礼を述べさせて頂きます。既にお気付き付きかと思いますが、95号機の左、機関士側運転室を写した写真です。現在展示されて居る物と比べると随分と違います、戦時中を生き延びた95号機ですが、新製時に付けられた砲金製のナンバープレートは戦時共出で失われたのでしょうか残念です。又、この機関士の方は一〇八才で他界されたと聞いて折ります、ふとこの方の生まれた年代を追ってみました。すると狩勝に鉄道が開通した一九〇七年頃生まれ、この記念写真を撮ったのが三十二歳頃と分かりました。これも機関車、機関士、狩勝との、点と線の縁でしょうか。尚、最近95号機の弟にあたる96号機が群馬県の碓氷峠鉄道文化む

らに保存されて居る事が分かりましたので、渋谷栄一氏の深谷工場で焼かれた煉瓦で造られた碓氷第三橋梁共々見学を楽しみにしている所です。この様に次々と縁が広がります、これからの人生も縁を大切に過ごしたいと思います。



松本機関区時代に撮られた記念写真
(写真提供 雨宮光志様)